

紫明の窓

発行：京都鞍馬口医療センター

編集：広報委員会

2019年5月 第9号



独立行政法人地域医療機能推進機構
京都鞍馬口医療センター

〒603-8151 京都市北区小山下総町27番地
TEL 075(441)6101代表 FAX 075(432)0825
URL <http://kyoto.jcho.go.jp>

着任のご挨拶

京都鞍馬口医療センター

事務部長 今中 俊之



この度、平成31年4月1日付で、京都鞍馬口医療センター事務部長を拝命いたしました。改元の年に、勤務先が奈良（大和郡山病院）から京都（京都鞍馬口医療センター）に変わるのも何かのご縁と感じ、身が引き締まる思いです。

学生時代は、京都にある某大学に通学しておりましたので、古都の素晴らしさは、私なりにではありますが認識しており、着任するにあたっては大変懐かしく、心から喜んでいきます。また、一方では、その責任の重大さを痛感していることも事実です。

平成26年4月に、独立行政法人地域医療機能推進機構（JCHO）が発足して、早や5年が経過しました。JCHOにおいては、第2期中期目標・計画がスタートしました。また、地域においても2025年の超高齢化社会への対応を見据えた地域包括ケアの更なる強化が必要となっております。

地域の状況、地域における当院の役割を理解しながら、行政、関係医療機関と連携のうえJCHOの使命のひとつである「急性期医療／回復期リハビリ／介護」のシームレスなサービスを継続して提供しつつ、先代から受け継いだ当院が、引き続き「令和」の時代においても、「愛され信頼される病院」、「選ばれる病院」として地域住民の皆様から認められるよう、管理職の一員として業務に取り組んで参りますので、ご指導、ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

医師紹介

第九回は、
長谷川彰則先生を紹介します。

JCHO京都鞍馬口医療センターと
なつて、今年で6年目を迎えます。私は、
社会保険京都病院の時代の平成5年から
現在まで勤務しておりますので、26年が
経過しました。これもひとえに近隣の医
院・歯科医院の先生方の温かいご支援・
ご指導の賜物と感謝しております。当院
の歯科・口腔外科は、常勤歯科医師2名
診療体制です。京都市北区において歯
科・口腔外科の入院ができる唯一の「病
院歯科・口腔外科」として、今後もより
一層、地域の病診連携・医科歯科連携に
貢献したいと考えています。平成31年4
月に、新しく朝日大学口腔外科から太田
貴久先生が加わりました。日本口腔外科
学会の指導医で、専門は、口腔がんです。
これまで以上に、より幅広い歯科・口腔
外科の診療ニーズに応えられるよう精
進・努力していききたいと思えます。

一般歯科から口腔外科まで地域の特性
に密着した歯科医療を目指し、埋伏智歯
抜歯を始めとする口腔外科手術、そして
高齢・有病者の歯科治療に全力で対応し
ています。また、当院歯科・口腔外科は、
日本有病者歯科医療学会認定研修歯科医
療施設の認定を受けています。口腔外科

手術時には患者の安全性を考慮した手術
を実施しております。

口腔外科では腫瘍性疾患・外傷・嚢胞
性疾患・炎症性疾患・顎関節疾患・唾液
腺疾患・口腔粘膜疾患（口内炎、白板症、
扁平苔癬等の治療）・埋伏歯（親知らず
の抜歯等）・神経疾患・周術期の口腔機
能管理などの口腔・顎・顔面領域の疾患
の治療を行っております。

専門外来としていびき外来を開設し、
当院耳鼻咽喉科および睡眠（呼吸）障害
専門クリニックと連携・協力して治療を
行っております。検査で睡眠時無呼吸症候
群（SAS）と診断されれば、いびき防
止マウスピース（スリープスプリント）
治療が保険適用になります。いびき及び
睡眠時無呼吸症候群（SAS）に対して
90%以上の症例で十分効果がありました。
私は、京都府内に2人しかいない日本睡
眠科学学会の認定医を取得しています。

がん治療では、非常に多くの患者が、
治療で生じる口腔粘膜炎や口腔乾燥、味
覚異常、さらには菌性感染症など、口腔
合併症を引き起こして、様々な口腔のト
ラブルで苦しんでいます。当院の歯科・
口腔外科でも、「がん患者の口腔を

る」ことを目標に掲げて、がん患者を始
めとする全身麻酔による手術又は化学療
法を実施する入院患者に対して、精力的
に「がん患者の周術期口腔機能管理」
「がん患者の口腔ケア」に取り組んでい
ます。がん治療を理解して安全・安心に
歯科医療・口腔ケアを行なえるよう努め、
がん患者を支援する取り組みを行なつて
います。また、担当がん患者が入院から退
院後を通じて、継続して口腔機能管理が
受けられるように、京都市北歯科医師会
および口腔サポートセンターと連携を
とつて「患者さまを中心とした途切れな
い地域ネットワークの構築」を目標に、
「がん連携」を大変重要と考え、実践し
ております。



歯科・口腔外科の
スタッフです。

〜 医院紹介 〜

医療法人

大友整形外科



当院は平成12年3月に鞍馬口病院のお膝元に開院し、今年で20年目に入りました。勤務医時代は整形外科医として主に脊椎を専門に手術していましたが、開院後は保存的治療に最善を尽くし、特にリハビリテーションを重視し、骨・関節の痛みを和らげて、できるだけ元の生活レベルを維持できるように治療しています。

そのために当院では牽引など種々の物理療法以外に理学療法士が2名常勤し、日々運動器リハビリテーションを行っています。また、お昼の診療時間外には介護保険での訪問リハビリテーションに出かけています。また、全身型骨密度測定装置を導入し、骨粗鬆症治療にも力を入れています。

しかし、緊急の入院や手術が必要な例も数多く、CTやMRIなどの検査を含めて鞍馬口医療センターには地域医療連携室を窓口として大変お世話になっております。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

医療法人 大友整形外科

整形外科・リウマチ科・リハビリテーション科

診療時間	月	火	水	木	金	土
AM 9:00~12:00 診察・リハビリ	○	○	○	○	○	○
PM 2:00~ 4:00 リハビリのみ	○	○	/	○	○	/
PM 4:00~ 7:00 診察・リハビリ	○	○	/	○	○	/

休診日：水・土曜日午後・日曜日・祝日

往診・訪問リハビリ・時間外(緊急)の診察もしております。

〒603-8152 京都市北区鞍馬口通室町西入小山町
(烏丸鞍馬口西入70m/鞍馬口駅から徒歩3分)

TEL 075-417-0787



鞍馬口カンファレンス

今回は68名(院内28名、院外40名)のご参加をいただきました。次回は元号が令和となり始めての鞍馬口カンファレンスを8月22日(木)19時頃の予定としております。皆様の参加を心よりお待ちしております。

次回鞍馬口カンファレンスは8月22日開催予定

特別講演 京都府立医大消化器内科 伊藤義人 教授



MRIを最新の機種に

当院のMRIはシステムがフルデジタル化され、最新の高速撮像技術を導入します。

従来よりも高精細、高画質、撮像時間の短縮等が期待されます。さらに、検査時の閉塞感を低減するシステムも導入しております。本稼動は令和元年6月初旬を予定しております。工事期間中、皆様には大変ご迷惑をお掛けしますが、何卒宜しくお願ひいたします。

放射線科診療部長 高橋 健

新 入 職 医 師 紹 介

- ①経歴
- ②専門分野 (※②臨床研修を始めるにあたって)
- ③趣味

(平成31年4月1日付)



太田 貴久
 歯科・口腔外科
 部長

①朝日大学卒／朝日大学大学院卒②日本口腔外科学会指導医、日本がん治療認定機構がん治療認定医(歯科・口腔外科)、日本口腔腫瘍学会、日本口腔科学会③神社巡り(御朱印帳を始めました)、テニス(初心者ですが)



鈴木 教久
 内科医長

①滋賀医科大学卒／京都府立医科大学大学院卒②消化器内科、消化管内視鏡検査・超音波内視鏡検査・腹部超音波検査、大腸ポリープ切除術③旅行(海外は5大陸の内4大陸は行きました。最近是国内重視ですが)、水泳(健康維持のため週1回程度)



泉谷 康仁
 外科医師

①京都府立医科大学卒／京都府立医科大学大学院卒②消化器外科③ピアノ、ボルダリング、ワイン



丸山 尚樹
 内科医師

①和歌山県立医科大学卒／京都府立医科大学大学院卒②循環器学会専門医、カテーテル検査・手術やペースメーカー手術・心臓エコー検査③学生の頃にジャズピアノをしていたこともあり、休日には音楽鑑賞や演奏をしています。また、読書も好きです。



久野 はるか
 内科医師

①金沢医科大学卒②呼吸器内科



西岡 友佳
 放射線科医師

①奈良県立医科大学卒②放射線専門医③ショッピング、音楽鑑賞



井出 大輔
 内科レジデント

①京都府立医科大学卒②血液内科③将棋、チェス、桑名七盤勝負(将棋、チェス、囲碁、オセロ、等)



北川 愛菜
 臨床研修医

①京都府立医科大学卒※②本院での研修を通して京都市北区を中心とした地域の皆様と深く関わり合い、そこで行われる医療を学び習得したいと考えております。まだまだ未熟ですが、精一杯勉強と努力を積み重ねていこうと思います。③音楽(3歳時から習い始めたピアノ、中学時代はオーケストラ部でクラリネット、大学時代は軽音部でギターとピアノを演奏していました)、美術(鑑賞と制作)、写真



次回予告

第61回市民公開講座

令和元年 6月9日(日)

を予定しております。

担当/内科、看護部

防災訓練を実施

平成31年3月19日に消防訓練を実施。消防署の方々にご指導いただきました。慣れない作業、動きに戸惑いもありましたが、いざという時に少しでも迅速に動けるようにするには、日頃の訓練が大事であると感じました。

